

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	応用生物化学科インターンシップ
	学部・研究科等名	農学部
	担当教職員名・役職	鈴木一史准教授、原田直樹准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	21
	受入企業等数	15
	受入企業等名	受入企業から事前了承が得られなかったため、未記入。
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休業等を利用して、民間企業や事業所、公的機関、および農家等で一定の期間研修を受けることにより、学部の講義等で学んでいる専門知識が、現場でどのように使われているのかを理解する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	この科目では、夏期休業等を利用して、民間企業や事業所、公的機関、および農家等で一定の期間研修を受けることにより、学部の講義等で学んでいる専門知識が、現場でどのように使われているのかを理解する。履修する学生は、夏期休業中等の約2週間を利用して、受入先の担当者のもとで研修を受ける。この研修を通して専門知識の応用方法を学んだり、技術者や農家の職業観に触れることが期待できる。なお、この科目は農学部の「就業力育成科目」の一環に位置付けられている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前レポートの提出が義務付けられている。その他、誓約書の提出、研修先へのあいさつ(必要時)、履歴書の提出(必要時)などが必要になる。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後レポートの提出、及び学内で実施する報告会。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	事後レポートの提出、及び学内で実施する報告会。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修態度、事前レポート、作業日誌及び事後レポート、報告会の内容や出席状況によって評価する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	

要素⑤	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	期間は研修先によって若干異なるが2週間程度とする。研修先によっては、社員寮などに宿泊することもある。学生は研修中、毎日作業日誌を書き、研修終了後に提出する。(内容については提出前に研修先と協議しておく。)
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	PBL型インターンシップの場合、受入先と事前に研修内容と達成目標を協議している。学科での発表会とは別に受入先での発表会も行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/0A/0A_160A2204_ja_JP.html">http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/0A/0A_160A2204_ja_JP.html</a>
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkeiyoiku@adm.niigata-u.ac.jp